

福島第一原子力発電所の状況 / 3月22日 10:00現在（公開情報を元に原産協会とりまとめ）

発電所名	福島第一原子力発電所					
号機	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機
電気出力 / 熱出力(MW)	460 / 1380	784 / 2381	784 / 2381	784 / 2381	784 / 2381	1100 / 3293
型式	BWR-3	BWR-4	BWR-4	BWR-4	BWR-4	BWR-5
地震時の運転状況	運転中 → 自動停止	運転中 → 自動停止	運転中 → 自動停止	定期点検中	定期点検中	定期点検中
炉心燃料健全性	炉心損傷	炉心損傷	炉心損傷	燃料なし(使用済み燃料プールに移送)	健全	健全
格納容器健全性	健全	損傷の疑いあり	健全の可能性あり	健全	健全	健全
交流電源を要する原子炉冷却機能	機能喪失	機能喪失	機能喪失	必要とせず	必要とせず(AC電源供給可)	必要とせず(AC電源供給可)
交流電源を要しない原子炉冷却機能	機能喪失	機能喪失	機能喪失	必要とせず	必要とせず	必要とせず
建屋健全性	大きく損傷(水素爆発)	損傷	大きく損傷(水素爆発)	大きく損傷(水素爆発)	屋上孔空け実施(水素対策)	屋上孔空け実施(水素対策)
原子炉圧力容器内水位	燃料露出(部分又は全体)	燃料露出(部分又は全体)	燃料露出(部分又は全体)	安全状態	安全状態(冷温停止)	安全状態(冷温停止)
原子炉圧力容器内圧力	安定	不明	不明	安全状態	安全状態	安全状態
格納容器圧力	安定	安定	上昇後(3/20)低下	安全状態	安全状態	安全状態
炉心への注水(アクシデントマネジメント)	実施中(海水)	実施中(海水)	実施中(海水)	必要とせず	必要とせず	必要とせず
格納容器への注水(アクシデントマネジメント)	実施中(海水)	検討中(海水)	実施中(海水)	必要とせず	必要とせず	必要とせず
格納容器ベント(アクシデントマネジメント)	一時停止	一時停止	一時停止	必要とせず	必要とせず	必要とせず
使用済み燃料プール内の燃料健全性	注水検討	注水実施(海水)	水位低、放水実施(海水)	水位低、放水実施(海水) プール内で発生した水素が爆発	一時冷却機能が喪失し、プール水温上昇したが、機能回復し冷却	一時冷却機能が喪失し、プール水温上昇したが、機能回復し冷却
環境影響	環境モニタリングによる放射線計測値 : 正門付近にて 264.6 μ Sv/h (3月22日 6:00現在)、事務本館北にて 2015.0 μ Sv/h (3月21日 16:30現在) 福島県産の牛乳と茨城県、福島県、栃木県、群馬県産のホウレイソウ、カキナから、食品衛生法上の暫定規制値を超える放射能検出					
避難勧告	20km圏内住民に避難指示 * 20～30km圏内住民に屋内退避指示					
国際原子力事象尺度(INES) (原子力安全・保安院による暫定評価)	レベル5	レベル5	レベル5	レベル3	—	—
特記事項	現在最大の問題は、格納容器外使用済み燃料プール内の燃料の損傷。3号機及び4号機のプールに放水実施中、放射線のモニタリング結果が低下傾向にあることから、一定の効果を確 認。2号機プールに注水実施。 1～6号機において、外部電源を受電するための作業継続中。2号機では配電盤まで受電済み、負荷の健全性確認中。5号機では電源の一部を非常用ディーゼル発電機から外部電源に切 り替え済み。 福島県産の牛乳、茨城県産のホウレンソウ等のモニタリング結果が国の基準値を超えたことから、当面、これら畜農産物の出荷が制限されることとなった。 発電所前面海域で採取した海水から、規制限度を超える放射性ヨウ素(I-131)とセシウム(Cs-134,137)が検出された。 福島第二原子力発電所については、1、2、4号機について、INES評価レベル3(重大な異常事象)					

[情報源]
政府緊急対策本部発表、原子力安全・保安院発表、東京電力発表

[重要度](原産協会の評価)
 : 低
 : 高
 : 深刻(緊急対応要)

表の説明

原産協会では、原子力発電所の安全確保の考え方である「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」に着目し、事故状況を把握する上で重要なパラメータを選定し、本表を作成しました。発電所の安全を評価する観点と表上の各パラメータの関連を以下に示します。

